

## (1) 保土ヶ谷駅周辺の状況

保土ヶ谷駅周辺は、江戸時代に東海道の保土ヶ谷宿として栄えた歴史を持っています。明治20年に東海道線「程ヶ谷駅」が開業し、大正～昭和初期には帷子川の水利などを利用した工場の立地が進み、その後、丘陵部は住宅地として開発されていきました。

現在、保土ヶ谷駅は区内最大の乗降客数を誇っていますが、公的施設が集積している星川・天王町地区において、工場移転跡地を利用した大規模開発が進むにつれ、相対的に保土ヶ谷駅周辺地区の求心力が低下しつつあります。また、住宅地においては、高齢化など新たな課題に対応したまちづくりが求められています。

一方、JR東海道・横須賀線の西側では環状1号線の延伸が、東側では国道1号の拡幅が計画されており、これに伴ってまちの姿が変わる可能性があります。

## (2) 保土ヶ谷駅周辺地区プランの目的

保土ヶ谷らしさを保持しながら、まちの住みよさや活力を維持、伸長するためには、住民、企業、行政が地区の将来像を共有し、これをめざしてそれぞれが役割を果たしていくことが必要です。このため、住民懇談会の開催など、住民の方々と意見を交換しながら「保土ヶ谷駅周辺地区プラン」を策定し、横浜市都市計画マスタープランの地区プラン\*として位置づけます。

なお、このプランでは、必要なまちづくりをプロジェクトの形にまとめて示すことによって、まちづくりの関連性を明らかにし、関係者が取り組みやすいようにしました。

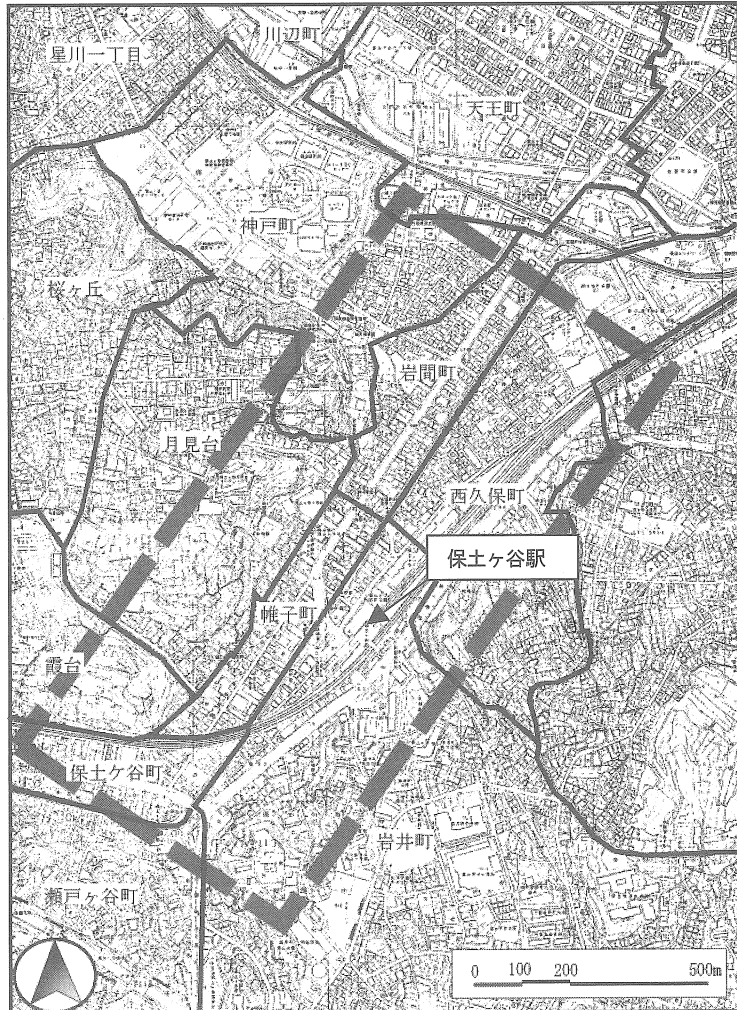
## (3) 対象地区

対象地区は、環状1号線を中心に東西に概ねともおよそ700m、北は岩間市民プラザ周辺まで、南は保土ヶ谷橋交差点周辺までの地区とします。面積は約100haです。

## (4) 計画期間

およそ20年後の将来を見据えたプランとします。

<地区の範囲>



\* 都市計画マスタープランとは、平成4年12月の都市計画法の改正により創設された「市町村の都市計画に関する基本的方針」のことで、横浜市では、全市プラン、区プラン、地区プランの3段階で構成します。区プラン及び地区プランは、区が策定主体となって、住民の方々のご意見を伺いながら策定します。

■保土ヶ谷駅周辺地区プランの構成

